

北海道 増毛町 2012 町勢要覧

増

ましけ

毛

にしん街道

増毛町

HOKKAIDO
MASHIKE

歩み来し道の物語

御陣屋御任地面境内略図
寛政十三年八月

江戸時代中期、蝦夷地の交易場所となり、松前藩の商人村山伝衛兵が増毛場所を請け負い、鮭、鯡などの海産物の交易が盛んになっていきました。

江戸時代後期、ロシアの南下政策の脅威から蝦夷地を守るため、国内の諸藩に警護の命令が下り、津軽藩、秋田藩が増毛の地に越年陣屋、元陣屋を設け、増毛の地を治めました。明治維新後、北海道開拓が始まり、先人たちの切り開いた漁業と農業が増毛の地に定着し、地域経済の発展と人々の生活基盤を支えていきました。



鯡の千石場所として栄えた明治時代の増毛市街は、北海道13市街の一つに数えられました。増毛には郡役所、官立病院、支庁、裁判所などの官庁や銀行の支店が置かれ、鯡の豊漁による繁栄もあり、道北の政治、経済、文化の中心地となりました。

明治33年（1900年）、道内の15ヵ町村に1級町村制が施行され、従来の増毛郡内の各町村を増毛町管下に治め、増毛町が誕生しました。



CONTENTS

- ① 歩み来し道の物語（過去～現在～未来）
- ② 確かな未来に継承（過去～現在～未来）
- ③ 安定した漁業経営へつながる浜づくり（増毛町の漁業）
- ⑤ 安心安全な増毛ブランドづくり（増毛町の農林業）
- ⑦ 根ざした産業が活力を支える（増毛町の商工業）
- ⑨ 四季彩・祭 躍動と情熱（増毛町の観光・イベント）
- ⑪ 誰もが安心して暮らせるまちに（医療・福祉・保健）
- ⑬ 活き活きと学び心豊かな人を育む（学校教育）
- ⑭ 生涯学習の推進（社会教育）
- ⑮ 健康で明るく生涯スポーツ（スポーツ）
- ⑯ 豊かな自然を活かした快適な暮らし（生活環境）
- ⑰ 歴史・文化の伝承と創造（文化）
- ⑱ 町民とともに明るく豊かなまちづくりを（行政・議会）



自然と暮らしが豊であるために



北限の果樹産地として、りんご、梨、さくらんぼ、ぶどう、ブルーベリーなど多くの品種に恵まれ、クリーン農業の推進により「フルーツの里ましか」を支えています。近年の稲作の減反が進む中で、良質な米の栽培を推進し、食味に優れた増毛産米を生産しています。

鯉漁の衰退を契機に、新たな漁業を展開し、すけとうたら、えび漁などの沖合い漁業やタコ漁、かれい漁などの沿岸漁業、そして育てる漁業として、ホタテ養殖、ウニ・アワビ・サケの資源増殖などの取り組みを展開し、活気ある漁業のまち増毛を支えています。数の子、たらこ、身欠鯉、いくら、たこ柔らか煮などを製造する水産加工業は、重要な基幹産業と雇用の場となっています。



ノールマリーナ

暑寒別天売焼尻国定公園の中にあり、自然景観に恵まれた郷土増毛は、町民の誇りでもある。様々な高山植物が咲き誇る秀峰暑寒別岳や暑寒別の山塊がそのまま日本海に落ち込んで高さ100mの断崖絶壁が続く雄冬海岸は手つかずの自然が残っています。温泉、キャンプ場、スキー場、歴史的建造物など各種観光資源と四季折々の増毛の食材を活かした歴史と食を体験できる観光を推進しています。少子高齢化と過疎化が進む中、まちづくりプランを基本に町民が生き生きと暮らせる生活環境、住民福祉、教育環境の充実を図っています。北海道有数の歴史の足跡が今も残る歴史の香る増毛町は、国指定の重要文化財「旧商家丸一本間家」をはじめに、北海道遺産の指定を受ける歴史的建物群が散在し、近年は多くの観光客が訪れています。



増毛港



雄冬展望台

確かな未来に継承

2019年までを計画期間とする総合計画（まちづくりプラン）にある「地域力を活かし確かな未来へ～住んで誇りに思える故郷をめざして」を基本テーマに、町民が元気で生き生きと生活できる、ふるさと増毛町をめざしています。地域力（地域資源）を活かし、町民と行政が一体となり先人たちが築いた歴史と文化・伝統を後世に伝え、町民が住んで誇りに思えるまちづくりと漁業、農業、水産加工業の振興と増毛の特色を活かした観光振興を図るとともに、新たなビジネスモデルを創造していきます。



安定した漁業 つながる

栽培漁業の推進

浅海及び沿岸漁業資源の増大のため、ウニ・アワビ・ヒラメ・ニシンの種苗放流事業を進め漁業資源の保護と育成対策を促進し、安定した漁獲量の確保を図っています。

漁業の歴史は古く、江戸時代中期から豊富な水産資源に恵まれ漁業のまちとして栄えてきました。現在は、エビ・サケ・タコ・カレイ・ウニ・アワビ・ホタテ・ナマコなどの漁業を中心とし、特に甘エビは、東京、北陸方面にほとんどが出荷され、航空便による輸送は鮮度が保たれ、市場から高い評価を得ています。しかし近年の漁業をめぐる環境は厳しく、魚価の低迷や磯焼けによる浅海資源・藻場の減少、さらには後継者不足という問題を抱えています。そのため、日本海沿岸の磯焼け対策と栽培漁業の一層の推進と新たな漁場造成、資源管理、既存漁場の再生を進めており、また、次代を担う漁業後継者の確保と育成のために、経営基盤の強化、漁業施設の整備にも取り組んでいます。



経営へ 浜づくり



漁獲物の地域ブランド化の 開発と販売

今後増毛町では、安定した漁業経営のため、地域特産としてのブランド化や積極的な販路拡大と付加価値を高め、漁家収益の向上へとつなげる取り組みを行っていきます。





さくらんぼ(おうとう)の花



桃の花



梨の花



リンゴの花

安心安全な増毛ブランドづくり

増毛町は北緯43度以北に位置しながらも、日本海を流れる対馬暖流により温暖な気候と暑寒山麓に囲まれた扇状地帯の良質な水に恵まれ、稲作と果樹を中心に農業がいとなまれてきました。

恵まれた気候と風土がつくりだす米は低タンパク米で食味の良い米産地として知られており、くだものは「北限の果樹地帯」としてその知名度も高く、濃厚でおいしいくだもの産地として知られています。

近年は安全で安心な農業をめざし減農薬栽培など様々な取り組みによりクリーン農業を実践推進しており、また、農産物の付加価値を高める取り組みとして農産物の加工やブランド化をめざし町内の観光施設・商店街やJAなど関係機関と連携しながら消費販売の拡大に努めています。

クリーン農業をめざして



北海道安心ラベル

本町における農業生産では、北海道が推奨する安心で安全なクリーン農業をめざし、土づくりや減農薬栽培・減化学肥料などに1998年から積極的に取り組んでおり、りんご・洋なし・さくらんぼ・ほうれん草が「北の農産物表示制度(イエスクリーン)」に認証登録されています。中でも増毛町果樹協会が中心となる果樹栽培が環境保全型農業推進コンクールにおいて全国環境保全型農業推進会議会長賞を受賞するなど高い評価を得ております。





林業

増毛町は、森林資源に恵まれており、森林面積は約33,000haで総面積の約90%を占めています。地球温暖化や環境悪化が叫ばれる中、増毛町森林整備計画のもとで、森林の持つ水土・環境保全などの公共的な機能の向上のため、除間伐、下刈りなどを実施しており、計画的な造林や保育を進め、森林空間の保全・活用を図っています。

将来を担う農業者の育成



低タンパク米としてブランド化された「南るもい産米」は、札幌や旭川といった大型店の主力となる商品として好評を得ており、暑寒の清らかな水でつくられる魅力ある米をはじめ、増毛町の大地から生まれる野菜やそばづくりなど、担い手の育成を進めながら増毛の農業発展に努めています。





根ざした産業が 水産加工

活力を支える



増毛町の商工業は、基幹産業である漁業を中心として発展してきました。エビ、タコ、ニシンを中心とした水産加工業は主力産業であり、塩蔵品（数の子・たらこ）を中心として加工され、海外（中国）研修生を受入れ、生産と販売の工夫と消費者ニーズの感知により商品開発などの努力により地域産業を支えています。また、暑寒別岳がもたらす豊富な水や農産物を利用した加工品として和洋菓子、手作りジャム、ジュースなども盛んにつくられています。

商工会と商工業者との連携を図り、少子高齢化に伴う経営の改善や後継者の育成を進め、地域に密接した特色ある商品やサービスの提供、観光と連携した商業活動戦略を構築し経営の安定化を促進しています。



地域の特性を活かし 活力ある産業をめざして



増毛町には明治15年(1882年)創業の造り酒屋「国稀酒造」があり、暑寒別岳の伏流水と南部杜氏により、高品質な清酒を生産しており、最北の酒蔵として人気があります。また、暑寒山麓で育んだフルーツを原料に、アイスワインやシードルなど果実酒の生産を手がける「増毛フルーツワイナリー」があります。

増毛町には年間を通し、多くの観光客が訪れており、観光をはじめ、文化や歴史的資源などと商工業を結びつけることが重要になっています。集客に対応すべく、道路・駐車場などの基盤整備に加え、宿泊施設の充実など、地域の特性をフル活用した総合的に連携を図った地域経済の活性化を目指してまいります。



岩尾温泉あったま〜る





春



暑寒荘



えび地酒まつり
(5月下旬)



その日に水揚げされたプリプリの甘エビを中心に新鮮な魚介類や地酒、水産加工品を大即売。飲食テントが建ち並び、多彩な催しで大盛況の「えび地酒まつり」は増毛町上げて開催する春の一大イベントです。



秋



秋味まつり (9月下旬)

増毛の秋は山海の幸でうめつくされる味覚の大宝庫です。鮭を中心とした新鮮魚介類をはじめ、暑寒山麓で育んだフルーツが盛り沢山に即売され、飲食コーナーも充実の秋味まつりは、旅人の食欲を満たし、遊び心を魅了します。



暑寒別岳スキー場まつり (2月中旬)



旧商家丸一本間家



暑寒海浜キャンプ場



清流橋



市街地近くには緑豊かなリバーサイドパークがあり、テニスコートやパークゴルフ場、オートキャンプ場などの施設を備えています。岩尾温泉や暑寒海浜キャンプ場、暑寒別岳スキー場、雄冬展望台、ノールマリーナなどが整備され、四季を通して旅人の心を彩ります。

歴史ある増毛厳島神社の例大祭は、各地から集まった、御輿の担ぎ手の威勢よいかけ声で始まります。3日間にわたる夏祭りは、いにしえより受け継がれた心の叫びと情熱で一気に燃え上がります。

夏

四季彩・祭躍動と情熱



行く夏を惜しむように、豪快な花火が港の夜空を華々しく演出します。海産物がふんだんに使われた豪快なバーベキューは、ピアガーデンを一層盛り上げ、夏の夜を満喫。



観光港まつり（7月下旬）



「健やかで元気に生き生きと暮らせるまちづくり」を展開する増毛町は、誰もが住み慣れ親しんできた土地や地域で安心して暮らせるよう、町民の視点から保健・福祉・医療体制の充実を図る仕組みづくりを進めています。



市街診療所



雄冬へき地診療所

誰もが安心して暮らせるまちに 福祉・保健・医療

平成7年度に保健センター「健康一番館」を建設し、健康なまちづくりのため、保健・医療・福祉を一体とし、誰もが安心して暮らせる体制づくりに努めています。



保健センター「健康一番館」



あっぱる保育所



あっぱる保育所

増毛町内の保育施設は、平成9年に改築した増毛町立増毛保育所（あっぱる保育所）があり、平成12年度からは、保育所内に地域子育て支援センターを開設し、自宅で子育てをしている世帯の支援も行っています。

明和園

居宅で生活が困難なお年寄りに健全で安らかな生活を送っていただくため、家庭的な雰囲気の中で楽しい毎日をご過ごしていただくように努めています。



養護老人ホーム（昭和38年開設 定員70名）
特別養護老人ホーム（昭和55年開設 定員50名）
増毛町デイサービスセンター（平成2年開設 定員15名/日）



明和園

生き活きと学び心豊かな人を育む まちづくりをめざして

増毛町内には、小学校四校、中学校一校があり、学校教育法の「生きる力」を育む理念を継承し、増毛町の学校教育の重点課題を設け、激しく変化する現代社会を生き抜く人間教育と豊かな自然や歴史風土を活かした特色ある学校教育を目指しています。



増毛町内には、町立幼稚園が一ヶ所あり、預かり保育も実施しています。幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期で、集団生活等を通して幼児の成長過程に合った心身の発育を助長し、家庭での幼児教育を支援するなどの大きな役割を果たしています。



増毛小学校



舎熊小学校



幼稚園



別対小学校



阿分小学校



増毛中学校



生涯学習の推進

生きがいを求めて学ぶ増毛町の生涯学習の取り組みは、女性領域では、「さくらコミュニティ学級」の運営、高齢者領域では、「暑寒大学」の運営の中で年間を通じて様々なメニューの事業を行っています。社会教育施設としては、文化センター、総合交流促進施設「元陣屋」、旧商家丸一本間家、創作の館、雄冬自然体験館があり、様々な社会教育事業への取り組みを推進しています。



少年領域では、「ジュニアリーダー修学旅行」、「ごだうつペ王国祭」、「発明クラブ」、「なんでも体験隊」、「国内研修」と数多くの社会性を培うための団体活動を行っています。



健康で明るく生涯スポーツ



温水プール

体育館

インドアグラウンド



生涯スポーツの振興は、健康で充実した生活を送るうえで精神的、肉体的にも重要なことであり、スポーツの日常化・生活化のためにも「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツに親しめる機会の拡充や環境整備を進め、スポーツ人口の拡大を図っています。



増毛ゴルフ倶楽部ハウス



暑寒別岳スキー場



町内のスポーツ関係施設には、町立体育館、温水プール、屋内グラウンド、パークゴルフ場、スキー場があり、スポーツ振興のための環境整備に努めています。

豊かな自然を活かした快適な暮らし

暑寒別岳をはじめとした美しい自然景観や街並み、さらには暑寒山麓に広がる果樹園の四季折々の景観は、安らぎを与えてくれる貴重な地域資源です。暑寒別川沿いにあるリバーサイドパークは、豊かな緑に囲まれた公園としてスポーツ施設、キャンプ場なども併設され、町民の憩いの場として利用されています。上下水道については、暑寒連峰の美味しい水を供給するため、上水道のほか、4ヶ所の簡易水道を設置して安定給水を図っており、また、平成6年度からは市街地公共下水道工事に着手しており、生活衛生環境の保全に努めています。

ごみ処理については、ごみの減量化のための再利用、再資源化、排出抑制を進めるため、平成13年からはごみの分別収集、平成15年からはごみの有料化が開始されました。また、留萌南部衛生組合による新しい一般廃棄物最終処分場が平成25年より供用開始されます。



住宅環境については、「増毛町住宅マスタープラン」、「増毛町公営住宅ストック総合活用計画」、「増毛町公営住宅等長寿命化計画」に基づき、住宅ニーズの多様化や高齢者への対応、既存ストックの現状を踏まえた、再生プログラム等、今後の建替事業や効率的な既存住宅の維持活用等、各種整備を進め、快適な住宅づくりを行っています。

移住・定住の推進

増毛町では、移住・定住促進のため、町のホームページを活用した移住関連情報の発信に努め、また、増毛町での生活を体験できる「ちょっと暮らし」の取り組みを進めています。



すまいる団地



リバーサイドパーク



暑寒海浜キャンプ場



下水道管理センター



総合交流促進施設 元陣屋



アップル団地



旧増毛小学校舎



平成15年12月には、歴史的建物群の中核を成す旧商家丸一本間家が国の重要文化財に指定される。

歴史・文化の伝承と創造

増毛町は、北海道でも歴史が古く、それらに関する史跡や歴史的な建物・資源が点在しています。



増毛駅



旧富田屋旅館

平成13年10月には、増毛駅前の歴史的建物群と増毛小学校が北海道遺産に指定される。



増毛厳島神社

増毛厳島神社・本殿は町指定有形文化財に指定。

雄冬地区に明治から伝承されている「雄冬神楽」が町指定無形文化財に指定。



2012 年版 町勢要覧の発刊にあたって

増毛町は、秀峰暑寒別岳の麓に温暖な気候と自然に恵まれ、先人のたくましい開拓精神を受け継ぎ、今日まで発展してまいりました。

宝暦元年（1751年）松前の商人、村山伝兵衛が松前藩から増毛場所を請負、交易が始まりました。明治33年（1900年）7月に1級町村制が施行され、110年余の歴史を積み重ねてきました。

一昨年から新たなまちづくりプランがスタートしましたが、国内外においては、様々な課題が山積し、地方行政に対するニーズも多様化の時代となっています。本町におきましても、過疎化、少子高齢化の進行、産業構造の変化などの諸課題を抱えていますが、町民の誰もが住んでよかったと感じる故郷づくりを念頭に、まちづくりプランの基本テーマである「地域力を活かし確かな未来へ～住んで誇りに思える故郷をめざして」を町政の基本姿勢として、町民と一体となって、まちづくりを進めていきます。

本要覧により、増毛町のまちづくりを知っていただき、本町に対するご理解をいただければ幸いです。



増毛町長 石崎大輔

行政・議会



町民とともに明るく豊かな まちづくりを



議長 佐藤善一



副議長 岩崎俊一



副町長 酒井倫明



教育長 尾池宏実



総合庁舎



コミュニティセンター

地域力を活かし確かな未来へ

～住んで誇りに思える故郷をめざして～

町民の誓い

わたくしたちは、美しくそびえる暑寒の連峰と無限に広がる日本海にいだかれた増毛町の住民です。

わたくしたちは、風雪に耐えて郷土を開いた先人の偉業をしのび、輝かしい歴史と伝統を受け継いで、この町に住むことを誇りに思っています。

わたくしたちは、愛する郷土の発展を願い、より豊かな町づくりを目指して、ここに町民の誓いをさだめます。

1. からだを鍛え、仕事にはげみ、明るい町をつくります。
1. きまりを守り、力を合わせ、住みよい町をつくります。
1. 自然を愛し、環境をととのえ、美しい町をつくります。
1. 心ゆたかに、文化を高め、楽しい町をつくります。
1. 資源を活かし、未来をひらき、生きがいのある町をつくります。

北海道 増毛町
HOKKAIDO MASHIKE

2012 町勢要覧

発行日/2012年3月 発行/増毛町役場

〒077-0292 北海道増毛郡増毛町弁天町3丁目61番地

TEL0164-53-1110 FAX0164-53-2348

<http://www.town.mashike.hokkaido.jp>

E-mail: (総務課企画係) kikakuzaisei@town.mashike.hokkaido.jp

編集/増毛町役場総務課 企画・印刷/有限会社弘 版

町章



限りない本町の発展を表現したもので、「増毛」の文字を形象化し町民の団結と円満な明朗融和の精神を象徴しています。

町の色

青 (vivid blue)

ビビッドブルー / さえた青

町の花

サクラ (オオヤマザクラ)



エゾヤマザクラとも云い、バラ科さくら属ヤマザクラの一種。花弁が広く淡紅色の花はヤマザクラより濃く美しい。自然に恵まれた私たちの町を象徴する花です。

町の木

ナナカマド



バラ科ナナカマド属の落葉小高木。春には爽やかな香りを放ち、秋には真っ赤な実を結びます。材質は堅く燃えにくいいため、北国に生きる私たちの粘り強さを表すにふさわしい木です。

町の鳥

カモメ (ウミネコ)



チドリ目カモメ亜科の海鳥。他のカモメが冬鳥として飛来するのに対して、ウミネコだけは日本で繁殖します。白を基調とし青灰色と黒のコントラストが海の青さにマッチし、海を愛する増毛町民が大切にしている鳥です。

町のキャラクター

マーシーくん (カモメ)



1990年より活躍しています。